
シンポジウム7

尿路上皮癌；Next 10 Years

司 会 杉 元 幹 史 (香 川 大)
 榎 田 英 樹 (鹿児島大)
 演 者 三 宅 牧 人 (奈良県立医科大)
 田 岡 利宜也 (香 川 大)
 吉 田 崇 (関西医大)
 鑑 野 秀 一 (鹿児島大)
 林 哲太郎 (広 島 大)
 村 上 洋 嗣 (熊 本 大)

司会のことば

長らく進展のなかった尿路上皮癌 (UC) 診療は、この数年で疾風怒涛の変化を見せている。3 大泌尿器癌の中では最も予後不良とされてきた UC は診断、手術、全身治療の全てが進化しつつあり、その予後も改善されつつある。我々は筋層非浸潤性膀胱癌 (NMIBC)、筋層浸潤性膀胱癌 (MIBC)、上部尿路上皮癌 (UTUC)、転移性尿路上皮癌 (mUC)、またこれらのスクリーニングや予防について、全ての知識をアップデートして日常診療に反映させる責務がある。本シンポジウムでは 6 人のスペシャリストの先生方に、現在の UC 診療のアップデートと“10 年後はこうなっているはず”という希望を含めた予想を述べて頂いた。

奈良県立医科大学の三宅牧人先生は NMIBC 治療の変遷について解説し、今後はスクリーニングによる「早期発見が重要」であることを力説された。海外ですでに市販されている Cxbladder および XPERT BC といった尿中のがん特異的 mRNA を検出する新しい診断キットが紹介された。10 年後には PSA ならぬ Urothelium-specific antigen (USA) という新しい腫瘍マーカーが開発されており、UC のスクリーニングや NMIBC 治療後の再発フォローに使われ、全ての尿路上皮癌は「NMIBC で診断可能となる」という希望を込めた大胆な予想を頂いた。

香川大学の田岡利宜也先生からは MIBC に対する現

在の手術成績は決して満足できるものではないことが示された。周術期における全身治療により完全奏効 (ypCR) を達成することが非常に重要であり、臨床試験別の CR 達成率と、それを予測するマーカーについての解説があった。現在、免疫チェックポイント阻害薬 (ICI) を含む化学療法シーケンスについて複数の臨床試験が進行中であることが紹介されたが、10 年後は分子サブタイピングに基づいて周術期における全身治療のレジメン選択やその至適症例の選択が行われるようになるとの予想を頂いた。

関西医科大学の吉田崇先生には UTUC における腎温存治療についての紹介があった。腎温存治療は欧米のガイドラインではすでに記載され、日本でも最近フォーカスされている。低リスク UTUC に対する光線力学診断 (PDD) 併用レーザー治療については自施設における良好な成績が紹介され、10 年後には標準化治療として確立しているであろうと言及を頂いた。

鹿児島大学の鑑野秀一先生からは mUC に対する全身治療についての考察があった。一次化学療法は現在、ゲムシタビン + シスプラチン併用療法 (GC) であるが、10 年後にはエンフォルツマブベドチンやサシツマブゴビテカンなどの抗体複合薬 (ADC) や、ADC と ICI とのコンビネーションが現在の GC 治療に代わって mUC の 1 次治療として行われる可能性が示唆された。また、近い将来に FGFR 阻害薬であるエルダフィチブが本邦でも使われるようになり、mUC に対する治療ア

ルゴリズムが10年後には大きく様変わりすることを予想して頂いた。

広島大学の林哲太郎先生からはUCのスクリーニングとして、尿中の癌関連 mRNA 検出法 (Cxbladder/XPERT BC)、メチル化遺伝子の検出法 (AssureMDx)、cell free DNA の遺伝子変異のターゲットシーケンス検出など、現在のスクリーニング検査を感度・特異度ともに凌駕する新しい検査法の詳細な紹介があり、さらに自施設における有望な尿中診断マーカーの研究が紹介された。

最後に熊本大学の村上洋嗣先生には尿路上皮癌のリスク因子から考える発癌予防について最新の知見を述べて

頂いた。発癌のリスクファクターは芳香族アミンや喫煙だけではなく、ハーブ、生薬、漢方等に含まれるアリストロキア酸があることも紹介された。喫煙に関しては近年流行りの加熱式たばこは、紙巻たばこと比べて発癌物質がやや少ないものの主流煙に含まれる発癌物質の濃度は加熱式たばこの製品によっても大きな違いがあることなども紹介された。適切な予防法を講じることで10年後にUCは予防可能になる可能性を論じて頂いた。

UCの診断・治療・予防は今後10年でさらなる発展を遂げ、複雑化するであろう。各演者の予想がどうなったのか、10年後にこのセッションの内容を振り返ってみたい。
